運輸安全・安心通信

2017
8月号

今月のテーマ

追突事故を防止しよう

トラックやバス運送事業で最も多い事故が追突事故です。
事故の約半数が追突事故であり、それゆえに事業者様にとって追突事故対策は最重要課題となっています。
日々の溜まった疲れや少しのわき見運転が原因で追突事故は非常に起こりやすく、また起きた場合損失額も大きくなります。
8月は普段運転しない一般ドライバーも多く、夏の疲れもあり、1年でみても追突事故件数が多い時期です。
再度、追突事故防止のために全員の意識を高め、
事故0を目指しましょう。

追突事故発生時の特徴

追突事故発生時の特徴を理解し、安全への意識を高めましょう。

●年齢層：35～39歳がピーク
●行動類型：直進・等速で約7割
●道路形状：単路（トンネル・橋・カーブ・屈折以外）で約6割
●危険認知速度：約6割が30km/h超
●法令違反：前方不注視で約6割
●発生時間帯：10～11時台がピーク

ドライバーの追突事故防止7つのポイント

一人一人の小さな意識の積み重ねが、事故防止の近道です。プロのドライバーとして意識を高く持ち事故0を目指しましょう。

① 追突事故を起こさないと決意する
プロドライバーとして、追突事故を起こさない決意をもちましょう。

② 十分睡眠をとる
運転中に眠くならないよう、しっかり睡眠をとりましょう。

③ 乗務前点呼で運行管理者とよく話す
運転中に急いだり、焦ったりすることがないよう、
運行管理者と良く話しましょう。

④ 車間距離をとる、わき見をしない
少し反応が遅れたり、先行車が急ブレーキを踏んだりしても
対応できるよう、車間距離をとりましょう。
わき見もいけません。

⑤ きちんと休む
体調に異変を感じたら、運行管理者に相談しましょう。
また、休憩中はしっかり休みましょう。
（状況に応じて、軽く身体を動かして疲れをとったり、眠気を覚ましてください。）

⑥ 乗務後点呼では気づいたことを報告する
事故・渋滞といった道路情報や、疲れなどの自分の状況について乗務後点呼できちんと報告しましょう。

⑦ 同僚ドライバーとよく話し合う
同僚と話し合うことで、自分が気づかなかった危険に気づくことがあります。自分から情報提供をするようにしましょう。

発行者

上杉行政書士事務所　代表 上杉 麻美
神奈川県横浜市旭区左近山16－1　1－30－806
TEL&FAX 045-442-3592

行政書士法人シグマ　代表社員 阪本 浩毅
東京都中央区銀座一丁目13番1号
ヒューリック銀座一丁目ビル4階
TEL 03-6868-7256　FAX 03-6800-3604

ご用命・ご相談がございましたらお気軽にお問合せ下さい

一般社団法人　運輸安全総研トラバス
Mail tb@trubus.org　ホームページ http://trubus.org/